

問一 次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

ある春の日暮れです。

(※1)唐の都洛陽の西の門の下に、(1)ほんやり空を仰いでいる、一人の若者がありました。若者は名を杜子春といて、元は金持の息子でしたが、今は(2)財産を使い尽くして、その日の暮らしにも困るくらい、あわれな身分になっているのです。

何しろその頃洛陽といえ、天下に並ぶものがない、(※2)繁盛を極めた都ですから、(イ)往来にはまだひっきりなく、人や車が通っていました。門一ぱいに当たっている、油のような夕日の光の中に、老人のかぶった(※3)紗の帽子や、(※4)トルコの女の金の耳環や、白馬に飾った色系の(※5)手綱が、(ウ)たえず流れて行く様子は、まるで画のような美しさです。

しかし杜子春は相変わらず、門の壁に身をもたせて、ぼんやり空ばかり眺めていました。空には、もう細い月が、(オ)うらうらとなびびいた(※6)霞の中に、まるで爪のあとかと思う程、かすかに白く浮かんでいるのです。

「日は暮れるし、(エ)腹はへるし、その上もうどこへ行っても、泊めてくれる所はなさそうだし——こんな(オ)まずしい思いをして生きていくくらいなら、いっそ川へでも身を投げて、死んでしまったほうがましかも知れない」

杜子春はひとりさつきから、(4)こんな取りとめもないことを思いめぐらしていたのです。

(『杜子春』芥川龍之介。出題にあたり一部書き改めたところがある。)

(※1) 唐：中国の王朝の名前 (618～907)

(※2) 繁盛：商店などの活気があること

(※3) 紗：薄い絹織物

(※4) トルコ：現トルコ共和国

(※5) 手綱：人が手にとって馬をあやつる綱。

(※6) 霞：霧や煙が薄い帯のように見える現象

(1) 文章中の 線部について、漢字の読みをひらがなで、ひらがなは漢字に直して正しく書きましよう。送りがなが必要なものは送りがなも書きましよう。

(ア) 財産

ざいさん

(イ) 往来

おうらい

(ウ) たえず

絶えず

(エ) へる

減る

(オ) まずしい

貧しい

(2) 本文中の 線部「油のような夕日の光」と同じようにたどえを使った表現を、文章中の 線部①～④の中から一つ選び、番号で答えましよう。

②「まるで画のような」は、都の往來の美しさを「絵(画)」に例えているよ。

②

